

会派視察調査スケジュール

参加議員：吉田、畠山、木村、山川、浅野目、岡、菅、山本、高木、中川

(他、記録スタッフ2名同行)

〈4月3日〉

各自、新幹線車内にて集合

10：34 大宮駅出発（つばさ133号）

12：17 米沢駅到着

12：30 粉名屋小太郎(0238-21-0140 米沢市中央5-3-19)

14：00 山形県置賜広域行政事務組合

(0238-23-3246 米沢市金池3-1-55 産業会館1F)

{自治体クラウド勉強}

＜置賜地域の7市町(米沢、長井、南陽市・高島、川西、白鷹、飯豊町/全体で約22万人)

は基幹業務系・内部情報系の計12システムを、ネットワークを介して利用できる体制を整備。

複数の地方公共団体が共同で府庁内システムの大半をクラウドで実現するのは全国でも例の

ない先進的な試みであり、これにより7市町はシステム運用・維持コストの大幅な削減と職員の

システム運用面での負担軽減などを実現。＞

↓

15：00 山大工学部へ

↓

林泉寺

↓

17：30 東京第一ホテル米沢 (0238-24-0411 米沢市中央1-13-3)

18：30 夕食（登起波 0238-23-5400 米沢市中央7-2-3）

〈4月4日〉

9:30 ホテルロビー集合

9:45 上杉家廟所(0238-23-3115 米沢市御廟 1-5-30

ボランティアガイドあり

{墓所の観光効果等について}

〈歴代藩主の廟所が置かれているのは珍しく、昭和59年(1984)国指定史跡となりました。〉

10:15 廟所出発

10:30 上杉博物館(0238-26-8001 米沢市丸の内 1-2-1

学芸員 角屋由美子様ガイド担当)

{藩財政危機・天災時に効果を発揮した上杉鷹山の政策を当時の貴重な資料をもとに学ぶ}

〈山本議員合流・つばさ127号〉 合流

12:00 上杉博物館視察終了

12:10 興讓小学校訪問(0238-22-8040 佐藤教頭・神野教諭

{郷土教育について}

明治13(1879)年開校、明治14(1881)年明治天皇御臨幸)

12:40 訪問終了

12:45 昼食(上杉伯爵邸 0238-21-5121)

13:45 昼食終了

14:43 米沢駅出発(つばさ144号、中川・水村のみ、つばさ142号)

16:30 大宮駅到着

米沢市上杉博物館

平成13年建設。

土器の展示から始まる博物館がほとんどだったが、それではつまらないという事で、川中島の戦いの時代から始めている。（特化した所がいいなと思いました。確かにかわり映えしない土器や農工具の展示はつまらない）

国宝『洛中洛外図』は、外部の人がその写真などを掲載する時、申請が必要だが、センター試験に出題する時はさすがにそれを事前に公表する訳にはいけなくなかった。国宝は展示期間が60日間と決まっていて、今回上野で展示する事になったが、外に貸し出す期間もそれに含まれる。洛中洛外図の複製は制作費6500万円。貸し出し時、保険に入る事から評価額を算定したら10億円との事。バブルの時20億円の値が付けられたが、それでも売らなかった。“ウォーリーを探せ”のように図の中の人を探すのが流行ったが、この図には、南蛮人も猫も書かれていない。

藩は米沢に移って来た時、また越後に戻れるのではないかと10年間まちづくりをしなかった。

120万石の時代の武士の人数のままだったので、下級武士は城下に入りきれなかった。

上杉謙信の墓は本丸にあり、二の丸には寺院があった珍しい城だったが、明治時代に上杉神社をつくり、墓を現在の所に移した。

二代藩主の親戚にキリシタンがいて、藩でかくまい、日本では天草に次いで米沢は巡礼地になっている。

江戸時代、後継ぎがない藩は取りつぶされた。

石高が15万石になったとは言え、山形に15万石あるのは米沢藩ともう1藩しかない。

借金返済の意識は、上杉鷹山公の時代まで藩になかった。

上杉鷹山公は1773年“大儉約令”を発する。

上杉家は元々あった120万石の格式にこだわり、3万石の藩から養子に来た鷹山（当時23才）を諸大名は馬鹿にし、“改革の中止・人事一新”を藩士全員が望んでいると7人の家臣が訴えた“七家騒動”。1783年（天明3年）には天明の大飢饉。

天明5年、鷹山公は35才で隠居し、改革に腰を据えようとするが、思うようにいかない。

鷹山公など養子の主君は頑張る。

鷹山公と側室の死は4ヶ月違い。側室は10才上。